



自然環境の保全で地域づくり

東上1区自治会地域づくり

平成20年度に岩屋の滝公園や三田ダム公園の清掃活動、地域の貴重な資源である岩屋の滝の保全活動を目的として27名で発足した「東上1区自治会地域づくり」。活動も4年が過ぎ、岩屋の滝は本来の美しい姿を取り戻し、周防灘を見下ろす大平山からの道沿いの桜街道は、今では町の貴重な観光スポットになっています。また、地元の東友枝川のホタルを守る運動にも取り組んでいます。毎年5月下旬から6月上旬にかけて、ホタルの乱舞を鑑賞することができ、多くの観光客で賑わいます。少子高齢化が進む中、地域で大切な資源を守り育てる取り組みは町内外からも熱い視線が注がれています。

美しい鳴き声と光の乱舞を共演させ、地域の魅力をアップカジカガエル人工孵化への取り組み

みなさん東上に生息している「カジカガエル」をご存知ですか。「カジカガエル」は、溪流に生息し、メスはオスよりもかなり大きく、フィー、フィーという鹿のような美しい鳴き声のため、古来より日本人に愛され、河鹿蛙という名前がついています。このカエルの繁殖期がホタル最盛期と同じ時期であることに着目し、ホタルとの共演を楽しんでもらい、地域の魅力アップに繋げようと、カジカガエルを増やすための、「卵の人工孵化」に地域全体で取り組むこととしました。

地域の発案に町も賛同し、平成23年6月、カジカガエルの保護活動で知られる島根県出雲市立鱒淵小学校に職員を派遣し、人工孵化のノウハウを勉強することから取り組みをスタートしました。

卵採集失敗から一転 成功の兆し

4月22日、まずは東友枝川での卵探しを行いました。この日の参加はメンバーを中心に、約20名で、網とバケツを手に卵を産卵しそうな流れが穏やかな場所を探しました。しかし、時期が早かったせいかこの日は残念ながら卵は見つかりませんでした。

ところが5月末、上島弘さんが自宅近くの水路で偶然、カジカガエルのつがいを見発見。石を敷いたプラスチックのコンテナを水路につけ、常にきれいな水の状態を維持し、大切に飼育しました。

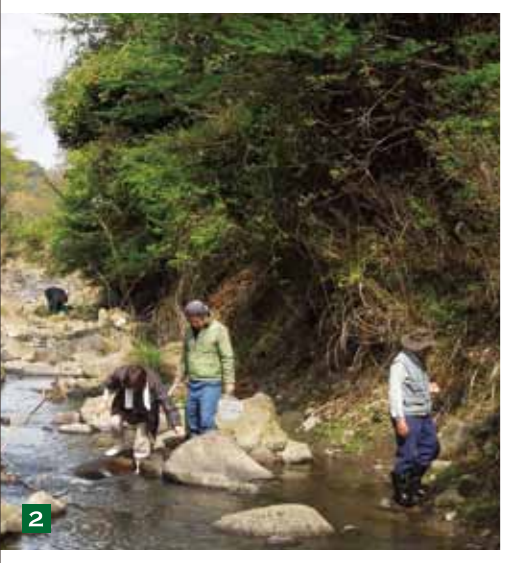
そして、発見から2日後、奇跡が起きました。なんとコンテナの隅に黒色の卵がたくさん産みつけられていました。この時の様子を代表で、自治会長でもある山下正吉さんは「卵を見るのは始めてで、最初は信じられなかった。地域のみんなで大事に育てていかなければならないと思いました」と興奮した様子で語り、人工孵化成功に光が射しました。

あすの上毛町につなげるために

6月上旬、大切に飼育してきた卵は順調に孵化し、次々とかわいいオタマジャクシになりました。このオタマジャクシを4世帯で飼育しました。餌は、春に摘んでいた桜の新芽や鶏卵の白身をゆがいた手作りです。「日に日に大きくなるオタマジャクシは、まるで孫の成長を見るような喜びを感じます」と話す皆さん。やがて後ろ足が生え、体の模様が少しずつできてきたところ、今度は前足が生えました。この頃から徐々に尻尾の吸収が始まり、カエルらしくなってきました。また、新たなカジカガエルの捕獲にも成功し、さらに卵の数も増える見込みになりました。

8月10日、ついに約2ヶ月に渡り卵から育てた子どものカジカガエル約100匹を東友枝川に放す日を迎えました。町長をはじめ、メンバーの皆さんは体長が1〜2cmに成長した子ガエルを思い思いに川に放し、元気づけたいに泳いで旅立つ姿を見送りました。「これからも育て方を工夫しながら、放流を続けていきたい。そしてこの地域が観光名所になって、たくさんの人に来てもらえるようになれば嬉しい」と笑顔で語っていました。

大きくなった雄が雌を求めて鳴き始めるのは、2年後の初夏とのこと。東上自治1区がカジカガエルの美しい鳴き声と光の乱舞で包まれる未来はもう間近に来ているようです。



2 卵を探すメンバー 3 カジカガエルの卵 4 元気に泳ぐオタマジャクシ 5 餌はメンバーの手作り 6 手と足が生えカエルらしくなってきた 7 カジカガエルが住みやすいように飼育ケースの清掃はかせません 8 「元気に育って美しい鳴き声を聞かせておくれ」感慨深い放流式

1 カジカガエル雄